

『聖人乎盜賊乎』序
泉鏡花作

全一章

いにし年、はじめて積年の望を容されて、机を横
寺町の玄關に据ゑたりし夜、燈下に坐して暗涙襟を
傳ふを覺えず、喜び極りて泣きたる也。時に一客あ
り、戸を排して入る、御免と、予未だ取次の事に馴
れず、其の面をニるのみ、紅葉先生自ら燈を乗りて
出でて迎へ、誰氏です、客曰く、原です、あゝ、抱
一庵君かと、後紙片を取りて獨り記して曰く、『闇
中政治家』の作者原抱一庵君と、爾來君の作に接す
る毎に、其の精透雄勁の文を誦すると與に別に常に
無量の感なき能はず、知らず以て、『聖人乎盜賊乎』
の序たるを得るや、否や、

【完】